

【人間社会科学研究科】

○人間社会科学研究科における教員養成の理念・目的

【社会創成専攻】

法政コースでは、社会秩序の選択、形成、維持等にかかる法学・政治学の専門知識を学ぶとともに、現実の社会問題を診断し、処方箋を提示する実践的能力も習得する。さらに新研究科においては、とりわけ地域をフィールドに、社会における人間のあり方にも踏み込んだ探求を行う。かくして、法政コースでは、広汎かつ専門的な知識、高い問題意識と課題解決能力、深い人間理解をもった、社会に有為な教員を養成する。

地域経済コースでは、人々の経済行動や社会における資源配分等にかかる経済学の専門知識を学ぶとともに、語源の通り、世を治め（＝経世）民を救う（＝済民）実践的な力も身に付ける。さらに新研究科においては、一層の人間理解のための学際的アプローチや最新のデータ分析などを積極的に取り入れる。かくして、地域経済コースでは、広汎かつ専門的な知識、グローバルな視座と行動力をもった、課題の解決に優れた教員を養成する。

人文社会コースでは、最新の研究動向も含めた高度な専門知識を身につけているのはもちろんのこと、人文学・社会科学・自然科学の連携という強みをいかし、当該科目と他教科との関連性や諸学問における位置づけを理解しながら、科目の枠にとらわれず多様な視点を持って創造性を育む能力を備えた教員を養成する。

○専攻における教職課程の設置趣旨

【社会創成専攻】

〈国語（中学校）〉

本専攻の教員養成教育では、研究科共通科目・コース基盤科目の履修により、広い視野から日本語学・日本文学・漢文学を位置づける視点を身につけたうえで、コース専門科目の講義科目においてそれらの学問分野の最新の研究動向も含めた高度な専門知識と方法論を学び、さらに演習科目によって実践的な課題解決能力を習得する。またコース間連携科目「インターディシプリナリー・コミュニケーション・セッション(IDCS)」により、高度なプレゼンテーション能力とコミュニケーション能力を身につける。以上により、中学校の国語科教員にふさわしい人材を養成する。

〈国語（高等学校）〉

本専攻の教員養成教育では、研究科共通科目・コース基盤科目の履修により、広い視野から日本語学・日本文学・漢文学を位置づける視点を身につけたうえで、コース専門科目の講義科目においてそれらの学問分野の最新の研究動向も含めた高度な専門知識と方法論を学び、さらに演習科目によって実践的な課題解決能力を習得する。またコース間連携科目「インターディシプリナリー・コミュニケーション・セッション(IDCS)」により、高度なプレゼンテーション能力とコミュニケーション能力を身につける。以上により、高等学校の国語科教員

にふさわしい人材を養成する。

〈社会（中学校）〉

本専攻の教員養成教育では、研究科共通科目「人間社会科学特論」の履修により、多様で学際的な視点とともに、人間と社会、双方を総合的に捉える能力を身に付ける。また、「社会実践科目」や「コース間連携科目」では、特にプレゼンテーションやコミュニケーション等にかかる実践的な力を得る。あわせて、コース専門科目においては、文化人類学、地理学、歴史学、考古学、法律学、政治学、経済学、社会学にかかる諸科目を学ぶことによって、広くて深い専門知識を習得する。以上により、中学校の社会科教員にふさわしい人材を養成する。

〈地歴（高等学校）〉

本専攻の教員養成教育では、研究科共通科目「人間社会科学特論」およびコース基盤科目「人文社会基礎論」の履修により、多様で学際的な視点とともに、人間と社会、双方を総合的に捉える能力を身に付ける。また、「社会実践科目」や「コース間連携科目」では、特にプレゼンテーションやコミュニケーション等にかかる実践的な力を得る。あわせて、コース専門科目においては、文化人類学、地理学、歴史学、考古学にかかる諸科目を学ぶことによって、広くて深い専門知識を習得する。以上により、高等学校の地歴科教員にふさわしい人材を養成する。

〈公民（高等学校）〉

本専攻の教員養成教育では、研究科共通科目「人間社会科学特論」の履修により、多様で学際的な視点とともに、人間と社会、双方を総合的に捉える能力を身に付ける。また、「社会実践科目」や「コース間連携科目」では、特にプレゼンテーションやコミュニケーション等にかかる実践的な力を得る。あわせて、コース専門科目においては、法律学、政治学、経済学、社会学にかかる諸科目を学ぶことによって、広くて深い専門知識を習得する。以上により、高等学校の公民科教員にふさわしい人材を養成する。

〈英語（中学校）〉

本専攻の教員養成教育では、研究科共通科目・コース基盤科目の履修により、広い視野から英米文学・英語学を位置づける視点を身につけたうえで、コース専門科目の講義科目において最新の研究動向も含めた高度な専門知識と学問としての方法論を学び、さらに演習科目によって実践的な課題解決能力を習得する。また「英語実践演習Ⅰ・Ⅱ」では英語運用能力を高め、コース間連携科目「インターディシプリナリー・コミュニケーション・セッション（IDCS）」により、高度なプレゼンテーション能力とコミュニケーション能力を身につける。以上により、中学校の英語科教員にふさわしい人材を養成する。

〈英語（高等学校）〉 本専攻の教員養成教育では、研究科共通科目・コース基盤科目の履修により、広い視野から英米文学・英語学を位置づける視点を身につけたうえで、コース専門科目の講義科目において最新の研究動向も含めた高度な専門知識と学問としての方法論を学び、さらに演習科目によって実践的な課題解決能力を習得する。また「英語実践演習Ⅰ・Ⅱ」では英語運用能力を高め、コース間連携科目「インターディシプリナリー・コミュニケーション・セッション(IDCS)」により、高度なプレゼンテーション能力とコミュニケーション能力を身につける。以上により、高等学校の英語科教員にふさわしい人材を養成する。